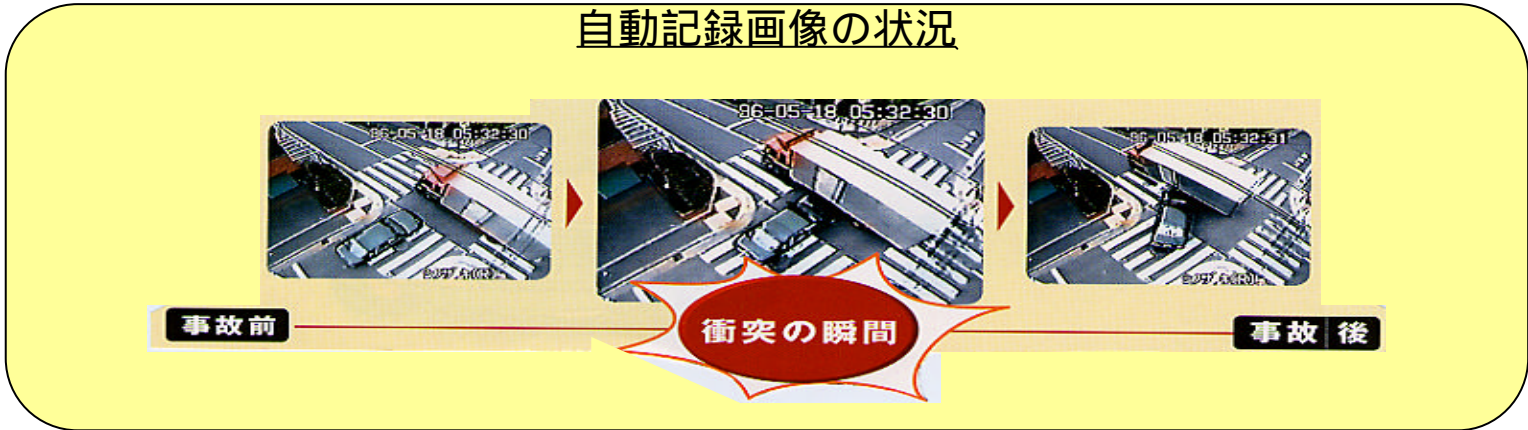
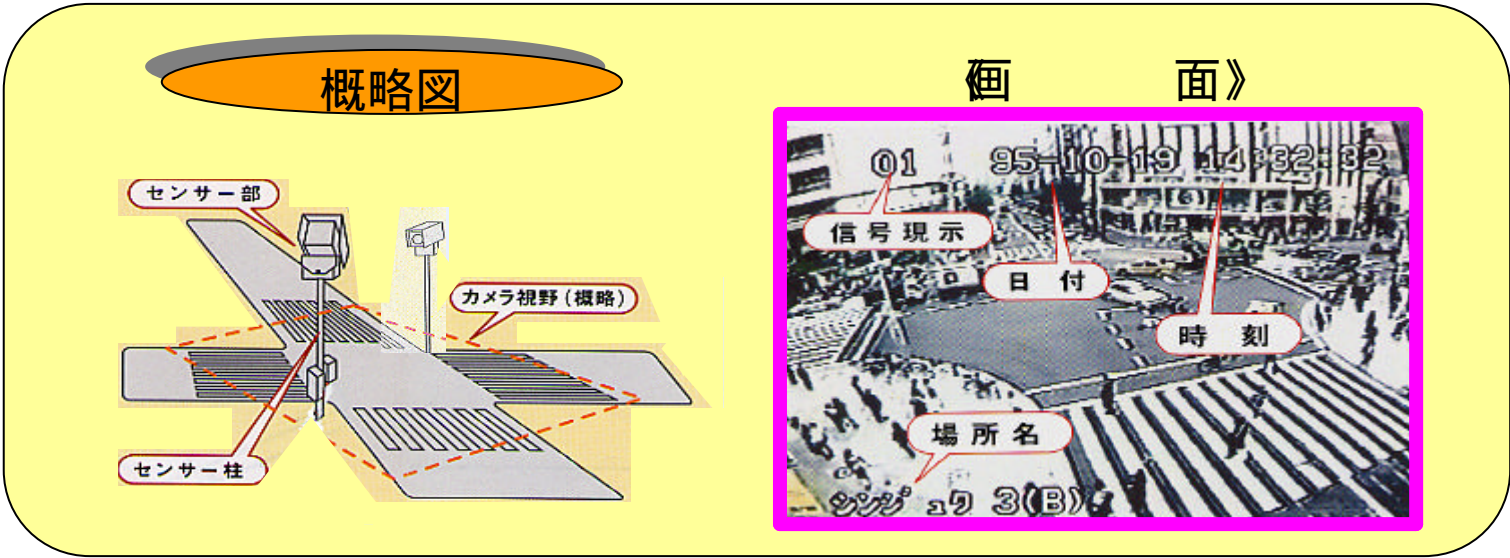


政策の名称	道路交通のIT化による都市機能の再生とバリアフリー社会の実現等（交通事故自動記録装置の整備）		
政策の内容・目的	全交通事故件数の約半数を占める交差点事故について、科学的かつ効率的に交通事故原因の究明を図ることを目的として、交差点内で交通事故が発生した場合に、衝突音やスリップ音等を感知して、事故発生前後の映像等を記録する装置（「交通事故自動記録装置」）を全国の交通事故多発交差点に設置するもの（別紙1）。		
必要性	<p>交通事故が年々増加し、過去最高を記録する中（別紙2）で、第一線の事故捜査の業務負担が過重になっており、限られた捜査体制の中で、より合理的かつ効率的な交通事故事件捜査を推進する必要が一層高まっている。</p> <p>また、交通事故捜査の在り方については、交通事故被害者・遺族を中心とする、事故原因の徹底究明、公平な過失認定を求める声を受け、飲酒、無謀運転等の悪質・危険運転の重罰化の検討が進められており、今後、従来の業務上過失致死傷事件の枠を超えたち密かつ高度な事故原因の究明・立証のため、より科学的な捜査を推進することが強く求められている。</p> <p>特に全事故件数の約半数を占める交差点事故（別紙3）については、当事者双方が自分の対面する信号機が青であったと主張する、いわゆる「青々事故」を始めとして、事故原因の究明に困難を来すケースが多く、目撃者探し等に多大の労力を要している状況にあり、科学的かつ効率的な事故捜査を推進するには、新たな視点から捜査支援システムの導入を図る必要がある。</p>		
達成効果等	<p>この装置によって、事故当時の車両の走行状況、信号現示等がVTRに記録されることにより、客観的な資料に基づく事故状況の把握が早期かつ確実に行われ、適正かつ効果的な捜査が推進されるとともに、事故当事者の現場立会いを要する実況見分に費やされる時間も短縮され、事故当事者の負担も軽減されることとなる。</p> <p>【参考】</p> <p>導入時から4か月間の録画件数</p> <p>導入時（平成13年4月）から7月末までの4か月間における録画件数は、合計1,421件である。</p>		
予算額	<p>平成12年度（補正） 1,158百万円</p> <p>平成13年度 5百万円（消耗品のみ）</p> <p>平成14年度要求・要望額 1,340百万円</p>		
効率性	交通事故記録装置は、活用の機会が特に多いと考えられる事故多発交差点に設置することとしている。		
その他			
政策所管課	交通指導課	政策評価実施時期	平成13年8月

# 交通事故自動記録装置の整備

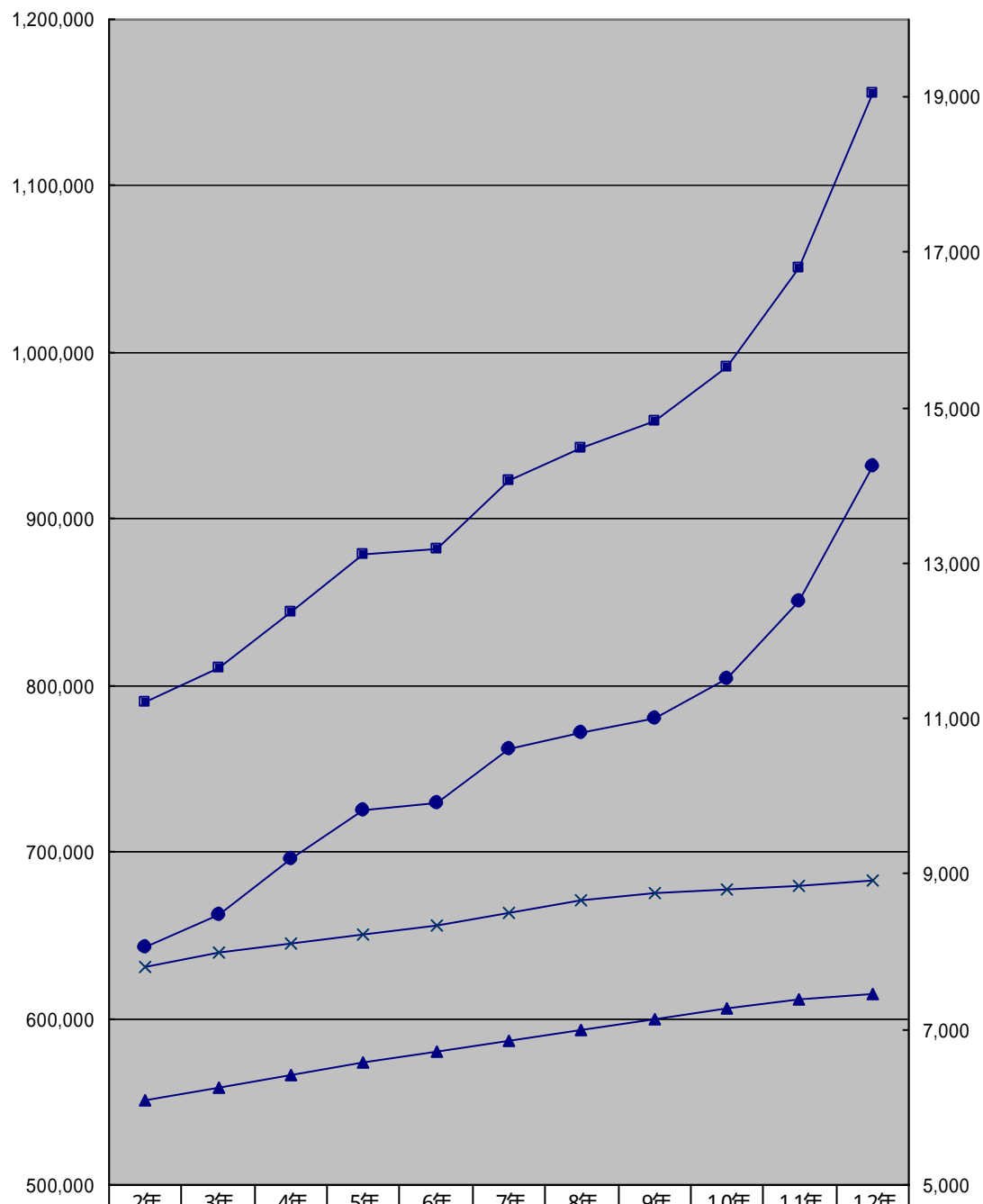
交通事故自動記録装置の整備による、科学的かつ効率的な交通事故事件捜査を推進します。

- ### 特徴
- ～ 交差点内で発生した交通事故の「直前」～「直後」の状況がVTRに記録されます。
  - ～ 事故映像、信号現示、ブレーキ音等が記録され、事故捜査の鑑定に役立ちます。



## 交通事故発生件数等の推移

件数、人数



	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
● 交通事故発生件数 (件)	643,097	662,388	695,345	724,675	729,457	761,789	771,084	780,399	803,878	850,363	931,934
■ 負傷者数 (人)	790,295	810,245	844,003	878,633	881,723	922,677	942,203	958,925	990,675	1,050,391	1,155,691
▲ 運転免許保有者数 (万人)	6,091	6,255	6,417	6,570	6,721	6,856	6,987	7,127	7,273	7,379	7,469
× 車両保有台数 (万台)	7,811	7,984	8,109	8,220	8,349	8,497	8,655	8,754	8,799	8,860	8,925

## 交差点事故の推移（過去 5 年の交通事故件数）

（単位：件数）

	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
交差点内	382,731	387,566	394,245	415,016	452,204
全 体	771,084	780,399	803,878	850,363	931,934
占める割合 （％）	49.6	49.7	49.0	48.8	48.6